

あらすじ

日本はタテ社会の中で年功序列に重きを置きすぎている。そのため課長は一人で良いはずなのに課長代理、補佐などの同期に差を生まないような制度がある。その他にも終身雇用制度もいい例である。

日本も一応能力主義も取り入れているが学歴などでしか見ないため能力主義というよりは能力平等観という価値観である。

そのため結局は年功序列を重きに置いてしまう。

能力平等観というのは誰でもやればできるというあいまい価値観である。

この章の魅力・感想

日本の社会の悪いところを明確に指摘しているというところ。

確かに日本は年功序列が根強くよく残っていて自分も前々から何の意味があるのかが分からなかった。

確かに学歴で人を判断するというのも良いとは思いますが、大切なのはその大学に在籍するのではなく、在籍する4年間のうちに何をしたのか、どのようなことを成し遂げたのかのところが重要だと思う。

そして何年在籍したら昇進というものではなく、もちろん普段の仕事ぶりを見るのはもちろん昇進するのにテストを設けるというのも一つの手だと思う。

海外の会社ではジョブ型というものの採用していて能力主義が強い。最近のベンチャー企業もこれを採用している。